

指名打者規則

第1条 (指名打者・DH)

1. 指名打者制 (DESIGNATED HITTER ー以下 DH という) は強制されない。
2. 各チームは、試合ごとに投手に代って打撃をうけもつ打者を指名することができる。
この場合、試合前に審判員に提出するスターティングラインアップから投手を除き、守備につかない選手を DH として打順に記入し、投手は欄外に記入しなければならない。
3. 投手が何人代わっても DH との関係は変わらない。
4. 試合前に審判員に提出するスターティングラインナップに DH を記入せず投手を打順に記入した場合は、その試合には DH をつかうことができない。

第2条 (DH の打順)

DH の打順は、スターティングラインナップに記入された打順に固定されこれを動かすことができない。

【注】 DH を守備につけた場合も、その DH であった選手の打順は動かさないことはいうまでもない。

第3条 (DH の交代)

1. DH に代打者を起用できる。この場合その代打者またはこれに代る者が DH となる。
2. DH に代走者を起用できる。この場合その代走者またはこれに代る者が DH となる。
3. 前各項により一度退いた先の DH は、再度試合に出場できない。

第4条 (DH の消滅)

次に該当する交代がなされた場合、DH は消滅しそれ以後は従来の規則により試合がつづけられる。

- (a) DH を守備につけたとき。
- (b) 登板中の投手を他の守備位置につけたとき。
- (c) 代打者または代走者がそのまま投手となったとき。
- (d) 登板中の投手が DH の代打または代走をしたとき。

【注】 登板中の投手は DH 以外の代打または代走はできない。

- (e) 打順表のなかの野手が投手となったとき。
- (f) 登板中または新しく出場する投手を打順にいれたとき。

【注】 (b) (c) (e) (f) に該当する交代がおこなわれたとき、その守備変更と同時に DH を守備にいれた場合は、DH であった選手は DH としてではなく試合に残れる。

第5条 (DH が消滅した場合の打順)

前条により DH が消滅した場合の打順は、次の各項により決められる。同時に2人以上の交代を行ない、打順の選択が認められるときは、監督はそれぞれのはいる打順と守備位置を決定し、球審に通告しなければならない。

- (a) DH を守備につけたとき。DH であった選手の打順は変わらず、これに関連する交代によって空いた打順に投手がはいる。

(b) 登板中の投手を他の守備位置につけたとき。投手から野手になった選手および新しく試合に出場する救援投手は、これに関連する交代によって空いた打順にはいる。

(c) 代打者または代走者がそのまま投手となったときは、その打順にはいる。

(d) 登板中の投手が DH の代打または代走をしたときは、DH の打順にはいる。

(e) 打順表のなかの野手が投手となったときは、新しく試合に出場する野手または野手として試合に残るもとの投手が DH の打順にはいる。但し、同時に DH を守備にいれたときは、新しく試合に出場する野手または野手として試合に残るもとの役手は、これに関連する交代によって空いた打順にはいる。

(f) 前各項に規定される交代による場合以外は、登板中または新しく出場する投手をどの打順にでも入れることができる。投手を DH 以外の打順にいれようとするときは、退いた選手に代り新しく試合に出場する選手を DH の打順にいれなければならない。

以上

第4条 (DH の消滅)

〔説明〕 攻撃中に DH が消滅するのは (d) 項に該当する場合のみである。その他 (a) (b) (c) (e) (f) すべて守備につくときまたは守備中に起る DH 消滅の事由である。

第5条 (DH が消滅した場合の打順) の例

(a) の例 4 番 DH、3 番左翼手、9 番遊撃手のラインアップの時

〔例1〕 単数交代の場合。

DH を左翼にいれたときは、DH であった選手は 4 番左翼手、投手は 3 番にはいる。

〔例2〕 複数交代の場合の一例。

DH を左翼にいれ、遊撃手をかえたとき、DH であった選手は 4 番左翼手、新しくはいた遊撃手を 3 番にいれ、9 番に投手をいれる。

(説明—この場合 3 番と 9 番の打順が空くから、そのあとに新しくはいる遊撃手と投手をいずれの打順にいれるか選択できる)

(b) の例

〔例1〕 単数交代の場合、①または②いずれかを選ぶ。

①投手が一塁手の打順にはいって一塁手となり、新しく試合に出場する救援投手が DH の打順にはいる。

②投手が DH の打順にはいって一塁手となり、新しく試合に出場する救援投手が空いたもとの一塁手の打順にはいる。

〔例2〕 複数交代の場合の一例 (イ)。① または②いずれかを選ぶ。

①一塁手を右翼にまわし、空いたもとの右翼手の打順に投手をいれて一塁手にし、新しく試合に出場する救援投手を DH の打順にいれる。

②一塁手を右翼にまわし、投手を一塁手にし DH の打順にいれ、新しく試合に出場する救援投手を空いたもとの右翼手の打順にいれる。

(説明—この場合退いた右翼手と DH の打順が空くから、そのあとに新旧投手をいずれの打順にいれるか選択できる)

[例3] 複数交代の場合の一例(ロ) —同時に DH を守備にいれる場合。

DH を右翼にいれ、投手を一塁手にするときは、右翼手と一塁手の打順が空くから、新旧投手を退いた右翼手と退いた一塁手のあとの打順のいずれにいれるか選択できる。

[例4] 複数交代の場合の一例(ハ) —同時に他の守備交代をする場合。

投手を一塁手にし、一塁手と遊撃手を退けるときは、DH 打順ともとの一塁手、遊撃手の三つの打順が空くから、新旧投手と新しくはいる遊撃手の3名を空いた打順のいずれにいれるか選択できる。

(f) の例4番 DH、9番遊撃手のラインアップのとき。投手を9番にいれたいときは、9番の遊撃手を退け、新しくはいる遊撃手を4番 DH の打順にいれる。

打順	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
守備	8	9	7	DH	5	3	4	2	6	投手
選手名	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J

